

ウィンターサイエンスキャンプ本学で実施 文部科学省：主催（財）日本科学技術振興財団：実施運営

ウィンターサイエンスキャンプは、先進的な研究テーマに取り組む大学・公的研究機関・民間企業を会場とした、文部科学省主催の科学技術体験合宿プログラムです。全国から高校生等が参加し、日ごろ触れる機会のない研究現場での講義・実験・実習を行います。実施会場として、本学が参加協力をし、12月25日～27日、2泊3日で実施されました。プログラム分野は「ロボット工学・エレクトロニクス」で「自立型ロボットをつくろう」をテーマに、全国からロボット製作に興味を持つ11名の高校生が参加しました。

初日は小口学長の挨拶から始まり、マイコン制御ロボットの製作実習、二日目はシステム玩具を応用した課題ロボット製作に取り組み、三日目は研究室の見学など、参加した高校生にとって、楽しくも有意義なプログラムで進められました。



ロボット製作とプログラム制御の課題に取り組む高校生たち

地域交流

幾徳杯

『少年野球大会』『少年サッカー大会』を開催

毎年秋に本学グラウンドを使って行われる幾徳杯。今回は11月3日～18日に「第15回幾徳杯少年野球大会」が、また11月24日、25日に「第14回幾徳杯少年サッカー大会」が開催されました。野球大会の決勝戦は、春に完成したKAITスタジアムで行われ、小学生からは感激の声が上がっていました。一昨年、昨年に続き「長谷スポーツ少年団」が優勝。試合後はドッグショーを開催し、見学の皆さんには大変喜んでいただきました。

サッカー大会では400mトラックを走るチーム対抗リレーの後、サッカー競技を行い、「ハリマオサッカークラブ」が優勝しました。



連続優勝を果たした「長谷スポーツ少年団」の小学生たち



第14回幾徳杯少年サッカー大会

神奈川工科大学旗争奪

第8回

神奈川県小学生バレーボール大会 地域選抜大会

1月26日、神奈川工科大学旗争奪・第8回神奈川県小学生バレーボール大会地域選抜大会が本学第一・第二体育館にて開催されました。スポーツと学問の両立により、人の気持ちが理解できる、温かい心を持った若者の育成を理念とし、本学では平成15年から同大会の協賛を行っています。

試合の結果は、大接戦の末、優勝は男子・横浜選抜、女子・平塚選抜となりました。

本学は、スポーツに打ち込む皆さんのさわやかな友情の輪が広がり、良き思い出を作っていただくことを願っています。



小学生に人気！動物型ロボット製作

12月22日、自動車システム開発工学科の高橋良彦研究室が主催する「わくわく工作教室」が行われました。（後援／神奈川県立青少年センター）地域の小学生に大人気の同教室は毎回たくさんの応募があり、開催回数を増やすなどできるだけ多くの小学生の皆さんに参加してもらうよう実施しています。同教室では、動物型ロボットを親子で製作し、完成後、レースを行います。当日の準備、運営、参加者への指導などは、高橋研究室の学生やシステムデザイン工学科のロボットプロジェクトの学生の皆さんがボランティアとして活躍しました。



幼稚園で実験教室

12月1日、市内の七沢幼稚園に応用バイオ科学学科の教員と学生が出かけ、顕微鏡観察の実験教室を開催しました。当日は、二年生の学生8名と飯田泰広講師、市村重俊講師が幼稚園を訪問。参加したこどもたちは約20名。保護者や幼稚園関係者を含めると総勢70名ほどの賑やかなものとなりました。はじめての企画でしたが、授業が終わった後、顕微鏡の準備や園歌と劇の練習を行いました。迎えた当日は園児たちに園歌で歓迎してもらい、緊張の中で「目で見えたものと顕微鏡で見たもの」の劇がはじまりました。その後、園児たちは庭や畑、池に出かけて顕微鏡で見たいものを探してきました。自然に囲まれた幼稚園らしく、落ち葉、木の実、蟻、蝶、土・・・さまざまなものが届きました。実際顕微鏡で拡大してみると、子供たちの無邪気な大きな歓声が上がりました。

こどもたちにはもちろん、保護者や幼稚園の先生方にも楽しんでもらえ、すでに継続的な交流を期待する声が届いています。こどもたちとのふれあいを通して、それぞれの学生が何かを感じ取っていたのではないかと思います。（文責：応用バイオ科学学科講師／市村重俊）

学生の声（石井良枝さん）

たくさんのお園児達や保護者の皆さんが集まってくれ、私達の劇や顕微鏡実験に楽しそうに喜んでくれたのが本当に嬉しかったです。当日に緊張してうまく声が出なかったのが悔しいですが、自分自身にも良い勉強になったと思います。



学生による劇が行われた

少林寺拳法部奨励基金表彰式

1月30日、第18回少林寺拳法部奨励基金表彰式が行われ、奨励基金規定により、太田孝政さん（情報工学科4年）と坂本雅俊さん（情報メディア学科4年）が表彰され、顧問の自動車システム開発工学科・石綿良三教授より表彰状と奨励金が渡されました。

本基金の発起

昭和57年、当時の部員の突然の逝去に伴い、部員一同で葬儀へ参列。その際、同君のご両親より部員全員分の交通費をいただいて参りました。部員一同は同君の少林寺拳法への志を継ぐために、この交通費全額を奨励基金の礎としました。

